

ご意見募集！

広報誌をより良くしていくためにみなさんからのご意見を募集しています。ご意見をお送りいただいた方の中から抽選で3名様に日南町の特産品をプレゼントいたします。

送り先：〒689-5292 日南町役場 企画課 広報担当

手紙、はがきに①住所②お名前③電話番号④ご意見・ご感想をご記入の上、企画課まで郵送またはお持ち込みください。みなさんからのご意見お待ちしております！（※メールでは受けつけておりませんのでご注意ください。）

今月の
表紙

「かしらうち^{じげ}は地域の絆」

3月号は、福栄地域に古くから伝わる伝統芸能「かしらうち」についてご紹介します。



福栄のかしらうち

福栄のかしらうちは、毎年11月に行われる福栄神社の秋祭りの際に、その年の五穀豊穡を氏神様に感謝するために奉納されている。始まりは定かではないが、明治時代以前から行われていたものではないかと伝えられている。大正2年に旧福栄村の11の神社が合祀し福栄神社となったが、それまでは各集落ごとにかしらうちが奉納されていた。戦時中に一時中断していたが、昭和28年に経験者の記憶を頼りに復活させた。現在は平成8年に発足した「福栄伝統芸能保存会」が、かしらうちの伝承・保存活動を行っている。

平成17年には多里地域に伝わるかしらうちとともに、「日南のかしらうち」として鳥取県無形民俗文化財に指定された。

福栄伝統芸能保存会は、福栄地域の全世帯が会員となっており、「妙見太鼓」「かしらうち」「盆踊り」の3つの部で構成されています。現在は、小学生14人と大人15人が、かしらうちの活動に参加しています。

月1回、河川公園や地域振興センターで練習しており、指揮者の角田清さん(神福)が中心となって指導しています。これまでには福栄神社の秋祭りのほかにも、国民文化祭や鳥取県総合芸術文化祭などでの発表や、高齢者施設への慰問なども行っています。

世話役の^{こたけ ひとし}小竹等さんにお話を聞きました

かしらうちは地味ではありますが、「地域の伝統」だという思いが強いです。子どもたちにとってもいい思い出になっているようで、子どものときに活動に参加していた子たちが大人になって、「“かしらうち”と聞くと“じげ”だと思う」と言ってくれるのがうれしいです。大人になってから再度活動に参加してくれる若い人もいて、かしらうちが地域の絆になっていると感じています。

コロナ禍のため、令和2年の秋祭りではかしら打ちを中止しました。その時、かしらうちを楽しみに神社へ集まってくれた人たちがすごく残念がっておられて、そんな風に思ってくれているのかと感じました。今後はどんなことがあっても続けていこうと思っています。

地域がある限り、人がいる限り、かしらうちは続いていく、続いていってほしいと思っています。



秋祭りの日は、かしらうちを楽しみにしている地域の人たちが、福栄神社の境内に大勢集まります。



5年前から新しい取り組みとして、結婚や出産などの祝事があった家を訪問してかしらうちを披露しています。

